

火災予防かわら版

秋の火災予防運動

期間：11月9日～11月15日

秋の火災予防運動が始まります

11月9日から15日までの7日間、全国一斉に「秋の火災予防運動」が実施されます。

この運動は、空気が乾燥し火災の起こりやすい時季を迎えるにあたり、火災予防に関する知識や対策などを広く周知し、火災による被害を防ぐことを目的として実施されます。皆様もこの機会に、火の元の確認や、出火防止対策を見直してみましましょう。



昨年度の火災予防運動期間中の様子

【女川消防署火災予防PRサポーター】(女川地区)

令和2年度発刊
石巻地区広域行政事務組合
消防本部予防課

本紙に関するお問い合わせは
こちらまで

TEL 95-7167

FAX 94-4637

石巻広域管内

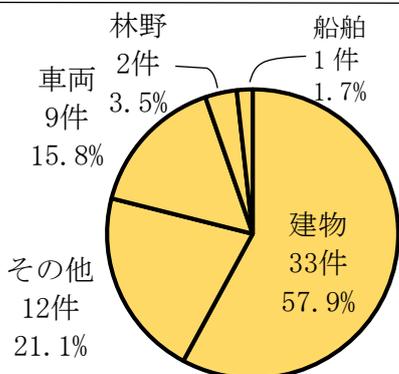
(石巻市・東松島市・女川町)

今年の火災件数

石巻広域管内では令和2年1月1日から10月末日現在57件の火災が発生しており、昨年1年間の火災件数48件を既に上回っております。

火災種別の割合としては建物火災が33件で全体の約6割を占めており、そのうち住宅火災が17件となっています。建物火災の出火原因として一番多いのが「タバコ」、次いで「放火」、「コンロ」となっています。

また、火災種別で建物火災に次いで多いのがその他の火災です。これは、野焼きやごみ焼きから燃え広がったものなどが原因となっています。



住宅防火 命を守る 7つのポイント

チェックしてみよう

3つの習慣

- 寝タバコは、絶対にやめる。
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスコンロなどのそばを離れたときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



あなたの家は防火対策をしていますか？

日常生活の中でも、火災の危険性は多く潜んでいます。あなたの家庭での習慣を確認してみましょう。



コンロ使用中にその場を離れていませんか？

火にかけた天ぷら鍋を放置し、熱せられた油が発火する火災が後を絶ちません。コンロを使用中は絶対にその場から離れないようにしましょう。また、離れる場合はコンロの火を消しましょう。



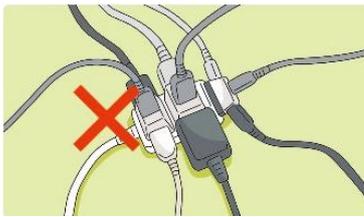
タバコの吸い殻は正しく処理していますか？

タバコによる火災が発生する原因は吸い殻の不始末や気付かない間に火種を落としてしまうなどがあります。灰皿に吸い殻をためずこまめに捨て、捨てる際は水に浸すなどして確実に消えたか確認してください。



放火されない対策をしていますか？

放火されないために、家の周りに燃えやすいものなどを置かない、ゴミは決められた日に出すなどの対策をしましょう。また、郵便受けには郵便物や新聞はためず、車やバイクのカバーは防災品を使用しましょう。



電気配線は危険な使用をしていませんか？

タコ足配線にして使用していませんか？石巻地区でも、電気配線による火災が発生しています。また、家具等の下敷きになっていたり強く折れ曲がったりしている電気コードは断線し火災に繋がるおそれがあります。こまめに点検を行いましょ。



ストーブへの給油方法は安全ですか？

給油の際、カートリッジタンクからこぼれた灯油にストーブの火が引火すると、一気に燃え広がります。給油をする時はストーブの火を消しカートリッジタンクの蓋はしっかり閉めましょう。



仏壇の火は安全に使用していますか？

仏壇のろうそくの火が袖につき、衣類が燃えて火傷を負う着衣着火があります。ろうそくの取扱いは十分注意しましょう。また線香やろうそくが倒れて火災になるケースもありますので、その場を離れる際には火を消しましょう。

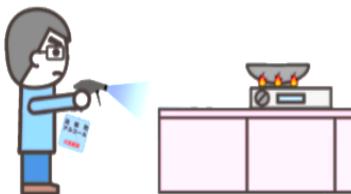
消毒用アルコールは火気厳禁です!!

消毒用アルコールにはアルコール濃度の高いものがあり、引火の危険があります。取扱いを誤ると、火災ややけど等を引き起こすおそれがありますので、取り扱いには十分注意しましょう！

火気の近くで使用しない！

詰替えは通気のいい場所で行う！

直射日光の当たる場所に保管しない！



アルコール濃度が概ね67%以上のものは、消防法上の危険物(アルコール類)に該当します。

80リットル以上を貯蔵する場合は条例や法令による規制を受ける場合があります。

IHコンロ火災



石巻広域管内において、今年2件のIHコンロからの火災が発生しています。IHコンロは火が出ないため一見、安全な調理器具と思われるが、使用方法を誤ると火災につながる危険があります。

火災の事例を一部紹介します。使用方法について今一度、確認しましょう。

【火災事例1】底が平らな鍋を使用しなかったことにより火災が発生した。

↓底が平らでない鍋を使ったことで、IHコンロプレートと鍋の間に空気層ができ、温度センサーが正確に作動しなかった。

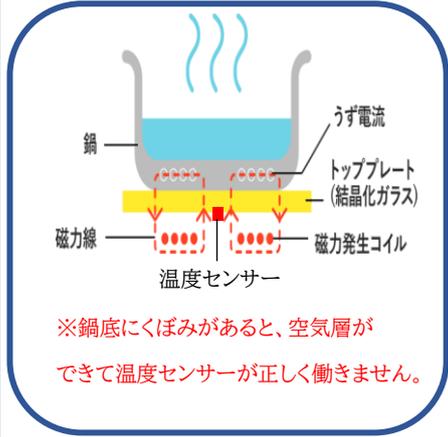
【火災事例2】揚げ物調理時に、少量の油にしたところ火災が発生した。

↓取扱説明書に記載されている量よりも少ない油量であったため、温度が急激に上昇し、温度センサーが正確に作動しなかった。

【火災事例3】IHコンロのトッププレートに「汚れ防止シート」を使用していたところ火災が発生した。

↓IHコンロの過熱防止装置は、トッププレートを介して鍋底と温度センサーが接触することで温度を測定しています。そのため、鍋底と温度センサー

との間に異物である汚れ防止シートが存在すると、正常な温度制御ができなくなり、油が設定温度以上になる場合があります。



火災を防ぐために

・コンロの近くには燃えやすいものを置かないこと。

・揚げ物調理中や汚れ防止シートを使用する際は、その場を離れないこと。

・調理中、その場を離れるときはスイッチを必ず切ること。

・底が平らでない鍋や変形した鍋は使わないようにすること。鍋底が変形していると安全装置の温度センサーが反応しないことがあります。

・揚げ物をする際は、取扱説明書に書かれた油量を使うこと。

・住宅用火災警報器が台所に設置してあるか確認し、常日頃から作動状況を点検すること。

子ども消防教室をホームページに開設しました。

石巻広域消防本部では、子どもたちが自宅や学校において消防の仕事などについて学べるよう、ホームページ上に「子ども消防教室」と題したページを開設しました。

普段あまり見ることができない消防庁舎内、火災や救急、災害などに出动している車両の紹介などを掲載しています。また、印刷して使える塗り絵もあるので是非使ってみてください。



寝タバコはゼッタイしない!



タバコが原因の火災のうち、よくあるのが無炎燃焼。特徴として、気付かないうちにタバコの火種が落ち、時間をかけてすぶり布団や畳を焦がしながら徐々に燃え広がります。

燃えていることに気付かずに、無炎燃焼を継続している布団等が周囲にある可燃物に接触すると発炎します。発火するまで時間がかかるので、寝てしまった後の思わぬ時間に火災が発生します。発火まで数十分から数時間になることもあります。寝タバコは絶対に止めましょう。



⚠️ 布団などの上では、タバコを吸わない。

ついて良かった！住宅用火災警報器

大きな火災に至らずに済んだ事例を紹介します。



調理中にその場を離れてしまい、警報音で火災に気づき駆け付けた同僚が水道水を汲んで初期消火してくれました。

外出先から帰宅した際、自宅内から警報音が鳴っていることに気づき、2階から炎が上がっているのを発見しました。すぐに1階の水道から水を汲んで消火しました。



就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、台所から火炎が見えたので119番通報後避難をしました。

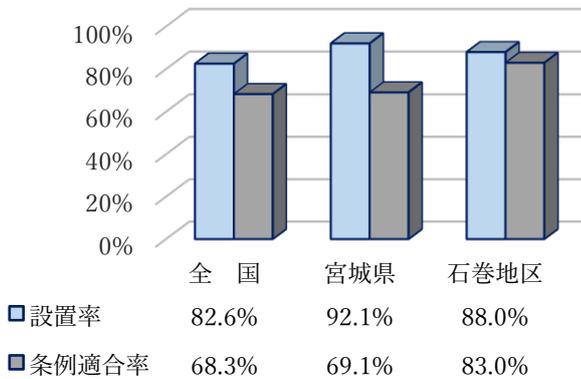
IHコンロに鍋をかけ、洗濯物を取り込んでいたところ、台所から警報音が鳴り火事に気づきました。



左記は、石巻広域管内で発生した火災で、住宅用火災警報器の警報音に気づき小さな被害で済んだ事例の一部です。もしも住宅用火災警報器がついていなかったら、人命と財産に多大な損害が発生していたかもしれません。
住宅用火災警報器は、住宅火災における「早期発見・早期消火・早期避難」に高い効果を発揮して

いることがわかり、火災による被害の軽減や命を守ることに直結していることを示しています。
いざという時に正常に作動するよう日頃から点検し、我が家の出火防止に備えましょう。

住宅用火災警報器の設置率と条例適合率（令和2年7月1日現在）



<設置率とは>

市町村の火災予防条例で、設置が義務付けられている寝室・台所・階段部分のうち、一箇所に設置されている世帯の全世帯に占める割合をいいます。

<条例適合率とは>

市町村の火災予防条例で、設置が義務付けられている寝室・台所・階段部分全てに設置されている世帯の全世帯に占める割合をいいます。

※どちらも、自動火災報知設備等の設置により住宅用火災警報器の設置が免除される世帯を含みます。

住宅用火災警報器を設置する場所

・台所

全ての台所に設置が必要です。

なお、料理中の水蒸気等での誤報を防止するため、熱感知器の設置も認められています。

・寝室

人が就寝する部屋全てが対象です。

・階段

2階以上に寝室がある場合には階段の上部への設置が必要です。

作動しますか？

点検をしていますか？



火災によって発生する煙や熱を感じ、音や音声の警報を発して火災の発生を知らせる住宅用火災警報器。一般住宅の設置が義務づけられてから12年が経過しようとしており、電池切れや部品の劣化などが危惧されます。

住宅用火災警報器が正常に作動するかどうかの点検方法は、警報器の本体にあるテストボタンを押すか、ヒモを引くだけで簡単にできます。ぜひ、各ご家庭で定期的に点検を行うようにしましょう。